

誤嚥性肺炎

の治療を受けられる患者様へ

入院診療計画書（患者用パス）

疾患名 誤嚥性肺炎

病棟(病室)

(号室)

患者氏名

様

主治医

主治医以外の担当者

特別な栄養管理の必要性 有 ・ 無 サイン

月日	/ /		~ / /		/ /		~ / /		/ /		/ /	
経過	入院当日		入院2日目～5日目		入院6日目～11日目		入院12日目～16日目		入院17日目～18日目		退院当日	
症状												
達成目標	発熱がなく呼吸が安定し楽にできる 検査・治療を不安なく受けることができる											
活動・安静度	活動の制限はありません 移動が難しい場合は看護スタッフがお手伝いします											
食事	飲み込みの状態を評価してから食事を提供します 嚥む力・飲み込む力に合わせた食事へ調整します											
内服・点滴	抗菌薬の点滴をします（5日間） 持参されたお薬は、医師の指示のもと使用します				症状に合わせて、治療の継続・変更があります							
清潔・排泄	発熱がなければ入浴・シャワーは可能です お体の状態に応じて介助を行います シャワーができない場合は、お体を拭いたり、着替えの介助を行います トイレで排泄ができない場合は、陰部洗浄を行います											
検査	痰の検査を行います		3日目と5日目に血液・レントゲン検査を行います									
処置	息苦しさがある場合は、医師の指示のもと酸素投与を行います 痰が出せない場合は、吸引器で取ります											
観察	血圧、体温、病気に関する症状について適宜観察を行います 皮膚の状態を観察します											
リハビリ	必要に応じてリハビリを開始します 入院時の身体の状態を評価します 飲み込みの状態を確認します								退院前の身体の状態を評価します			
教育・説明・指導	入院生活について説明を行います 転倒の危険性について看護師より説明を行います 歩くなど行動される場合は靴を履きましょう 入院時にサインが必要な書類がありますので、説明を行います 皮膚が弱い方には、パンフレットを用いて説明を行います						管理栄養士より食事の形態やとろみの必要性について説明を行います				退院時、主治医よりお話があります 退院後の生活について説明があります	
退院後の治療計画	必要があれば社会資源の提案やサービスの調整、サービス担当者との情報共有を行います										退院後外来での診察がある場合予約票をお渡しします	
退院後の治療上の注意点	口の中の清潔を保ちましょう 食事は、医師や管理栄養士の指導をもとに嚥む力や飲み込む力に応じて、むせにくい食事やとろみをつけましょう 胃液の逆流を防ぐために食後2時間は横にならないようにしましょう											
その他療養計画	☒ 安全を確保するため、やむを得ない場合に身体的拘束を行います 〈看護〉											

・診療内容等は現時点で考えられるもので、今後の検査等を進めていくにしたがって変化する場合もあります。その場合は再度説明いたします。

・入院期間については、現時点で予想されるものです。